

資料提供
令和5年9月25日
土木部監理課技術管理室
担当 松尾・岡田
TEL 225-1787

令和5年度 石川県建設新技術の新規認定について

先般、「石川県建設新技術認定・活用制度」に基づく石川県建設新技術評価委員会を開催し、下記の新技術が、公共事業に活用できると評価され新技術に認定されました。

1 「石川県建設新技術認定・活用制度」の趣旨

本制度は、石川県内の建設関連企業で創出された新技術（工法、材料、製品）を公共事業で活用し、県内企業の育成と技術力向上を図ることを目的に、平成17年に創設した制度であり、令和5年3月末までに18件が新技術として認定されている。

2 今回認定された新技術

1	新技術の名称	「蓄光誘導標識」
	申請者	(株)イケガミ（本社：石川県小松市今江町） 代表取締役 池上 茂雄
	新技術の内容	<ul style="list-style-type: none">・昼間の蓄光により夜に発光するタイルで、歩行者の足元の灯として利用できる製品。（公園や河川敷などで設置）・従来のソーラー式自発光縁石鋳に比べて、機器ではないため長期的に使用でき、劣化や腐食がしにくい。・LEDの直線的な光ではなく暖かい光のため、稲の生育や生態系など環境に配慮できる。

3 認定交付式

日時：令和5年9月27日（水） 14時00分～

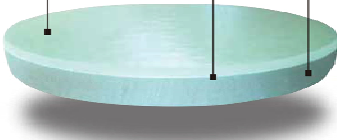
場所：県庁行政庁舎 15階 土木部会議室


「蓄光誘導標識」

申請者	開発目的	特徴、効果
株式会社イケガミ	路面標示灯の自発光緑石鋳は道路のカーブ、交差点で使われ、そのほとんどがソーラー式で、寿命が短いこともあり、長期使用の観点から蓄光方式を開発した。	<ul style="list-style-type: none"> ・セラミック蓄光石を生態系に影響を及ぼす為に街灯を取付ける事ができない歩道や階段のほか、公園や河川敷などに設置することで、長時間光り続け歩行者の足元の灯として利用できる。 ・ブラックアウト、被災時、災害時にも暗闇を明るく照らし道標になる。

【新技術の内容】

セラミック蓄光層 無機化合物 タイル

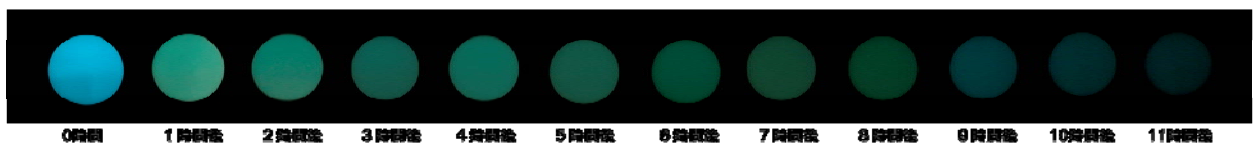




～特徴～


蓄光時間	20分
室内200ルクス	300ミリカンデラ
屋外	1400ミリカンデラ
10時間後の輝度	≥60ミリカンデラ

◆1時間ごとの光り方 比較





蓄光誘導標識 使用例


公園使用例




歩道使用例











○ポイント

従来のソーラー式自発光緑石鋳に比べて

- 1) 機器ではないため長期的に使用でき、劣化や腐食がしにくい
- 2) LEDの光ではなく暖かい光のため、稲の生育や生態系など環境に配慮